

第93回役員会・第41回経営審議会 議事要録

日 時：平成29年6月13日(火)14:00～

会 場：大学本館 E-701会議室

出席者：津田理事長、松尾副理事長、片山理事、柳井理事、梶原理事、田上理事

井上委員、今川委員、柏原委員、小林委員、竹島委員、松永委員

(オブザーバー) 中野監事、福田監事、二宮副学長、中尾副学長

議 案

- 1 平成28年度計画及び第2期中期計画に係る自己点検・評価について
- 2 平成28年度財務諸表、決算報告書及び事業報告書について
- 3 学長選考会議委員の選出について

報 告

- 1 第2期中期計画・第3期中期計画について
- 2 名誉教授の称号授与について
- 3 平成29年度入学者選抜試験の結果について
- 4 平成29年度入試広報計画について
- 5 平成28年度卒業者の就職状況について

議案1 平成28年度計画及び第2期中期計画に係る自己点検・評価について

<質疑応答>

[理事長]

●大学院の定員の充足について、第3期中期計画に項目として入っているのか。

[副理事長]

○中期計画の中では、少し組織を再選するとかコースを見直すといったことを行うように考えている。

[理事長]

●課題として認識しているという状況か。

[副理事長]

○そうである。

[理事長]

●経営を圧迫するような話ではないのか。

[副理事長]

○それほど大きな額ではない。

[委員]

●地域での就職率に興味がある。学部での就職率との相関性について伺いたい。また、地域創生学群の就職率が高いのか。その、特性を聞かせてもらいたい。

[副理事長]

○地域創生学群はずっと100%の就職率を出していて高い。地元就職率は18.5%だが、実際には地元就職したいと思っている学生がもう少しいる状況で、地元とのマッチングがうまくできていないのではないかと考えている。COC+という事業では、学生が地元企業を知るような機会を作って地元就職を是非考えてもらいたいということで取り組んでいる。

[委員]

●就職後の定着率についてはどのような状況か。

[副理事長]

○全体的には3年位すると離れてしまうと言われているが、現在詳細なデータを持ち合わせていない。

[委員]

●就職後の定着率を把握することは、その後の学生の就職を支援することになる。手がかかるかもしれないが、是非ともやってもらいたい。

[副理事長]

○今後キャリアセンターでそういったところもフォローしていこうと考えている。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

議案2 平成28年度財務諸表、決算報告書及び事業報告書について

<質疑応答>

[委員]

●外部研究費の減少について伺いたい。科学研究費補助金の獲得がどのレベルなのかという説明をしていただけるか。

[副理事長]

○分野によってかなり異なるが、理工系・医学系が強い。どこと比較するのかというのは検討するに至っていない。科学研究費補助金は、3年のスパンで応募するものなので、北方キャンパスでは、3年に1回は応募するように、ひびきのキャンパスでは、毎年応募するようにしている。研究内容と資金の金額が比例するものではないので、一概には言えない部分もある。

[理事長]

●バランスシートの健全性について、どこを見て判断したらよいのか。

[理事]

○損益計算書で、当期純損失と目的積立金の取り崩し額の合計である当期総利益がプラスとしているので、健全であるといえる。

[理事長]

●今のオペレーションで困っているところはないと考えてよいか。

[理事]

○財政上は問題ないと考えている。

[理事]

○少し補足で説明すると、取り崩しというか、4億9千万の積み立てがある。当初の予定では、予算を組むと2億7千8百万まで減る予定だったが、そのままであると次年度予算が立てられない。そのため、研究費とかいろいろ減らすが、実際に決算を打ってみたら8千7百万円しか使っていなかったの、元の積立金に戻す。ということから、予算がちゃんと組めそうなので、補正予算を組むということになる。損益計算書については、赤字なので取り崩しが無いといけない状況にあるが、民間でいうところの純益があるので、大丈夫ということになる。積立金がなくなると損益計算書上、赤になると思っていたらよければよろしいかと思う。

[理事]

○補正予算については、第2期から第3期に目的積立金を繰り越すが、今回は、市の承認を持って初めて繰り越しをする。そのため、年度初めの予算編成では、支出予算の一部を凍結し、繰越金の承認後、財源が確保できてから、補正予算を組むという流れになる。

[委員]

●決算結果が良くなったのは何を努力したのか。

[大学事務局]

○経営努力については、大学予算の6割近くは人件費である。教職員定数より実教員の数が少なかったことによる、人件費の減が主な要因となっている。この他、リース契約の見直し、職員の適正配置による減、教員研究費の一部の執行残など様々な要因がある。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

議案3 学長選考会議委員の選出について

<質疑応答>なし

【議長】浦野委員、田上理事、井上委員を、経営審議会からの学長選考会議委員として、承認してよろしいか。

【委員】異議なし

報告1 第2期中期計画・第3期中期計画について

<質疑応答>なし

報告2 名誉教授の称号授与について

<質疑応答>なし

報告3 平成29年度入学者選抜試験の結果について

<質疑応答>

報告3

[委員]

●国際系グローバル系の学部が増えており、英語のできる学生の争奪戦が始まるので、強化すべきポイントになっている。次に、入試改革の流れで国立大学が後期試験をなくして前期試験で学生を確保している。また、総合型のAO入試や推薦入試で学生を確保されるので、3月には学生が確保できないという状況だった。前半に広報や募集を強化する必要がある。最後に、東京23区の定員制限が出ている。今年からこの流れは始まっているので、九州地区では東京に流れていた人材を獲得するチャンスと考えられる。いずれにしても、早めの広報、募集が大事ではないか。

[副理事長]

○次の入試広報計画などで、しっかり取り組んでいきたい。

報告4 平成29年度入試広報計画について

<質疑応答>

[委員]

●市内出身者に対する優遇はあるのか。

[副理事長]

○入学金が安くなる制度がある。また、市内の学生を対象とした推薦入試の地域推薦という枠を設けている。

[委員]

●高校の先生から、大学に入ってからミスマッチを起こす学生が多いので広大連携の授業をとかを多くやっていただきたいという声があるので、拡充するとよいと思う。また、新しい取り組みをいろいろされているが、効果の検証をやってもらいたい。

○効果の測定は難しい。どの取り組みがどのように効いているのかと図るのが非常に難しい。もし、良いやり方があれば教えてもらいたい。

[委員]

●まずは、取り組みを始めていただければと思う。

報告5 平成28年度卒業者の就職状況について

<質疑応答>

[委員]

●定着率の悪さが問題になっているが、大学で情報収集はしているのか。

[副理事長]

○その辺がまだ十分にできていない。キャリアセンターで現役の学生のみを対象としているが、今後サポートできればと思う。